

令和4年度 保育園の自己評価

今年度はコロナ禍の終息に希望を持ち感染予防を意識しながら、子どもにとってより良い環境は何かを皆で考えて保育を行ってきました。今しか出来ない取り組みを少しでも多く、子ども達に経験させ、心も身体も大きく成長していく姿を見守ってきました。

●今年度の取り組みについて

1. 異年齢保育の活性化
2. 個性と特性を伸ばす

●取り組み内容

1. 異年齢保育の活性化について

園のオープンスペースという特有の環境を活かし、隣接したクラスとの異年齢交流が出来ました。横(同年齢)との繋がりや、クラス内で良い刺激を受け合いながら共に成長していくことができ、縦(異年齢)との繋がりや、年上児に対する憧れや年下児に対する思いやり、優しさを感じながら、成長することが出来ました。同じ場所を共有することで他児に興味・関心を持ち、少しずつ集団遊びにも繋げることが出来ました。戸外では活動量の違いもあり、安全面に対する保育者側のより一層の配慮が必要となりましたが、子どもたち同士で声をかけ合い、年上児が年下児に「危ないよ」と優しく教える姿がありました。多くの交流活動の場を持つことで、優しさを肌で感じ合い、思いやりの心を養いながら成長できる保育を行うことが出来ました。

2. 個性と特性を伸ばすについて

集団生活の中で家庭ではなかなか経験できない活動を人間関係や交友関係をとおし、その子の強みを見つけ、お互いを認め合い、喜びや達成感を得られるようにすることが出来ました。また、今年度から食育にも力を入れることでより多くの経験が出来ました。実際に栄養士から話を聞き、実物に触れることで、食に対する興味が出てきて給食がより楽しい時間となっています。

3. その他

行事の見直しも行い、少しずつ皆で体験できる機会も増やすことが出来ました。一人ひとりの個性を尊重し、クラス内にとどまらず視野を広げるようにしました。月齢や個々の発達により、物足りなさを感じる子、マイペースでゆっくり活動したい子などに対し、クラスの枠を超えて興味を引き出し挑戦したいと思える声かけや環境作りを行うことが出来ました。

4. 次年度について

今年度、この園で育んでほしい私たちの思いを改めて話し合い、保育方針を整理し保育内容も考えました。その中から、次年度は、食育をとおして遊びの中で出来ない経験を積んだり、子どもや保育士だけでなく栄養士も交えて一緒に考えていきます。また、体を思いっきり動かす活動や机に向かって集中する活動など、静と動を取り入れたメリハリのある保育を意識していきます。